

東洋銀行 四八九

株式会社

徳富蘇峰 呈



詩一首 呈

為城も若くは相成廻

除の福書知後此も書

公の家花信風と申す事吹

かす春吹花信風と申す事吹

已に死せるもの事と非ず

申す 先生修史の事

愈後亦有主と申す事吹

若く吹は申す事吹と申す

朝朝朝上長の朝朝朝

之朝朝朝朝朝朝朝

此年此の朝朝朝朝朝朝

まして 孝行も 孝行も 孝行も
 生命も 真理と 信念の
 には 樂後の ぬく 業として 志
 業も その 生涯を 小説化し
 るが 由緒の 拙者にして
 度々 謬交 あり 由緒 究
 の 業を 得る 由緒 あり 遺憾
 なる ども 先生の 書案に
 此の 小弟子の 心書 書が一
 冊 押さへ 交す 幸甚
 早々

丁卯 甲子 李光洙
 再お

京城府孝子町一七五番地

李 光 洙